果樹特報 No.4

平成 29 年 5 月 12 日
ＪＡ中野市営農センター
ＪＡ中野市りんご・もも部会

現状では黒星病の果実感染は確認されませんが、引き続き黒星病の重要防除期間です。一定の間隔で薬剤散布を進め感染防止努めてください。また、うどんこ病被害枝が市内全域で散見されます。この病害は 5 月の高温・乾燥状態下において感染拡大します。薬剤散布と併せて被害枝の除去を進めてください。

りんご

◆ 5 月下旬の薬剤散布（前回散布より 10 日後）

散布時期：5/20～25 頃

散布薬剤：水　　１００リットル
　　展着剤　　１０ml
　　フルーツセイバー　　５０ml（前日、３回）　＊注意事項①参照
　　コルト顆粒水和剤　　２５g（前日、３回）　＊注意事項②参照
　　スイカル　　１００g（カルシウム剤）

対象病害虫：黒星病・黒点病・うどんこ病・赤星病
　　アブラムシ類・カイガラムシ類

10 アール当り散布量：500 リットル

◆ 散布日：5 月　　日
◆ 散布量：　　リットル

【注意事項】　＊必ずお読みください。

① フルーツセイバーに代えて、アントラコール顆粒水和剤 500 倍（45 日、4 回）でもよい。

② コルト顆粒水和剤に代えて、(劇)モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍（前日、3 回）でもよい（カメムシ類に登録あり）。尚、モスピラン顆粒水溶剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。

③ 6 月末まではサビの発生しやすい時期です。高温時の散布は避けてください。

④ カルシウム剤の散布について：スイカル等は、ビターピット･果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果がある。今回から 5～6 回連続して散布する。尚、スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。ストピットⅡは、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。

◆ 次回（6 月上旬）薬剤散布予定：6/5～10

梅雨前の炭そ病・褐斑病等予防及びシンクイムシ類・カイガラムシ類等対象の薬剤散布です。

◆ 次頁もお読みください。（葉面散布資材使用例他）

5～6 月の葉面散布資材使用例

下表の資材は定期散布農薬と混用可能です。苦土欠乏症状等改善、健全葉育成を目的に各資材を選択使用してください。

＊N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素

商品名	保証成分量	使用目的	倍率 (倍)	価格 (円)	規格 (包装単位)	500 ﾘｯﾄﾙ当り 薬剤費(円)
グリーン デイズ (おすすめ！)	水溶性苦土　16% 水溶性ﾏﾝｶﾞﾝ 9.0% 水溶性ホウ素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	1000	1,491	1 kg	745
ビックマグ	水溶性苦土　23%	苦土補給 葉の健全化	1000	1,146	1 kg	573
グリーン トップ 70	水溶性苦土　23%	苦土補給 葉の健全化	500	1,334 2,228	2 kg 5 kg	667 445
ビビット グリーン	水溶性苦土　4% 海藻ｴｷｽに NPK 配合	苦土等補給 葉の健全化 光合成促進	500	1,393 4,271 7,305	1.2 kg 5 kg 10 kg	1,160 854 730
液体硫酸 マンガン	水溶性ﾏﾝｶﾞﾝ 13.5%	マンガン補給	200	1,023	1 kg	2,558
葉友(ようゆう)	N-5％、P-0.1％、 K-0.3% 高濃度綜合ｱﾐﾉ酸	光合成促進 花芽充実	2000	4,039 15,444 72,749	1ℓ 4ℓ 20ℓ	1,009 965 909

りんご生育状況と今後の技術対策について

◆　ふじ生育状況調査（調査地点：平岡）＊満開時点：前年比+12 日

年度	発芽	展葉	開花	満開
Ｈ２８	３／３１	４／５	４／２１	４／２３
Ｈ２９	４／７	４／１６	５／１	５／５

参考：南部
開花：4/30
満開：5/4

参考：北部
開花：5/3
満開：5/6

◆　**結実後の技術対策**

① 満開後約 3 週間位（5/25 過ぎ）で結実量や幼果のサビ等が確認できます。結実状況を確認し、5 月 25 日頃を前後から予備摘果作業に入ってください。

② ふじで結実量が極端に不足している場合は、予備摘果時期を遅らせ、変形果やサビ果（果面の 50%位まで）等の素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図ってください。

③ 低温被害が大きい地帯では、側果を利用できるふじから優先的に予備摘果を進めてください。

④ つがるや秋映等の品種で、低温被害が見られる場合は、極端な一輪摘果を控え、まずは結実状況やサビ果の発生状況を確認してください。また、中心果の欠落が著しい場合は、素質の良い側果を利用して生産量の確保に努めてください。

⑤ 結実不良園では、早期の徒長枝切除は当面控えてください。また、梅雨明け頃に過繁茂状態になる場合は、適宜管理作業を進めてください。

⑥ 養分転換期の５月中下旬になっても、展葉枚数が少なく、葉色が悪く小さい葉が多く見られる場合は、追肥や葉面散布を実施してください。（詳細は上記参照）